

## I 学校教育目標

礼儀を重んじ、他者と良好な関係を築く生徒の育成（礼節）

## II 学校経営方針

本校は、「笑顔で登校・笑顔で下校」を学校像として掲げ、生徒一人ひとりの小さな成長を全教職員で支える教育活動を推進する。

- ・小規模校だからできる、きめ細やかな支援と温かなまなざしを大切にしている。
- ・生徒の自己効力感を高め、自立した生徒の育成を図るとともに、不登校の減少を目指す。
- ・先生方の心身の健康・サービス事故ゼロの学校環境を整備し、安全で働きやすい学校づくりを進める。

## III 重点方針（カリキュラム・マネジメント）

本校は、東京都教育庁主要施策、江戸川区教育大綱および教育委員会の指導方針を踏まえ、以下の重点方針に基づき教育活動を組織的に推進する。

- 1 自立した生徒の育成
  - ・自己効力感・思考力の向上
  - ・不登校の減少
  - ・基礎学力と探究力の育成
- 2 カリキュラム・マネジメントの推進
  - ・教科横断的な学習の充実
  - ・地域連携教育の推進
  - ・PDCA サイクルによる授業改善
- 3 安全で働きやすい学校づくり
  - ・温かい職員室のムード・サービス事故ゼロ
  - ・教職員のウェルビーイング向上
  - ・校務の効率化と働き方改革の推進

#### IV 学校教育目標を達成するための基本方針（中期的なビジョン）

本校は、東京都教育庁主要施策、江戸川区教育大綱および教育委員会の教育指導課事業の下、学校教育目標の具現化を目指した教育活動を全教職員で組織的に推進する。

- ・学びのユニバーサルデザインを基盤とし、学習指導要領に基づく年間指導計画を作成する。学力向上アクションプランを活用し、確かな学力の向上を図る。
- ・授業研究等の校内研修を充実させ、教員の授業力向上を図る。
- ・健康教育を総合的な学習の時間に位置付け、生徒が主体的に健康を考え、生活に生かす力を育成する。体力調査の分析や補強運動を通して体力向上を図る。
- ・読書科の時間を活用し、読書への興味・関心を高めるとともに、読書を基盤とした探究活動を推進し、学びを深める態度を育成する。
- ・いじめ防止対策推進法に基づき、本校いじめ防止基本方針を再確認し、地域・保護者と連携して生徒の健全育成を図る。
- ・基本的生活習慣の確立を指導し、「あ（挨拶）・じ（時間）・み（身だしなみ）・せ（整理整頓）」を徹底する。教職員が範を示し、組織的な生活指導を行う。
- ・不登校生徒および特別支援を要する生徒への支援体制を整備し、SC・SSW・巡回教員と連携して「誰一人取り残さない」教育を推進する。

#### V 指導の重点

##### 1 豊かな心で互いに敬愛できる生徒の育成（敬愛）

- ・道徳・学級活動において対話的な学習を重視し、共感・自己肯定感・表現力を育成する。
- ・協働的な学びを通して、生徒同士が教え合い・学び合う授業を推進する。

##### 2 進んで学び深く考える生徒の育成（知性）

- ・英語科・数学科を中心に学力調査の分析を行い、重点指導項目を明確化する。
- ・「家庭学習プロジェクト（KGP）」を全学年で実施し、電子ドリル等を活用した個別最適な学習を推進する。
- ・授業のUD化、ICT活用、研究授業の実施により授業改善を図る。
- ・週末テスト、補充教室、長期休業中の取り組み等により基礎学力の定着を図る。
- ・図書室の蔵書管理システムを活用し、読書活動と探究的学習を連動させる。
- ・登校困難な生徒に対してもICTを活用し、学習機会を保障する。

##### 3 健康で明るく自らを鍛える生徒の育成（健康）

- ・保健体育の授業で補助運動を継続的に実施し、体力向上を図る。
- ・健康教育や心の健康講話を実施し、心身の健康に関する理解を深める。
- ・部活動はガイドラインに基づき、週2日の休養日および活動時間の適正化を徹底する。

#### 4 責任を重んじ勤労を尊ぶ生徒の育成（責任）

- ・防災教育を推進し、地域と連携した訓練を実施する。
- ・生徒会・委員会活動を主体的に運営し、自主性・規範意識・問題解決能力を育成する。
- ・SDGsに関する取組を推進し、持続可能な社会への意識を高める。
- ・情報モラル教育を徹底し、SNS ルールの遵守と IT リテラシーの向上を図る。
- ・職業講話・職場体験・進路講話等を通してキャリア教育を充実させる。
- ・地域行事・ボランティア活動への参加を促し、共生社会の形成に寄与する態度を育成する。

#### 5 礼儀を重んじ他とよい関係を築く生徒の育成（礼節）

- ・「あ・じ・み・せ」を生活指導の柱とし、日常のあらゆる場面で指導を徹底する。
- ・全教職員が全生徒を把握し、不登校・いじめ等の未然防止に努める。
- ・エンカレッジルームを整備し、個別支援や居場所づくりを推進する。
- ・小中連携を強化し、児童・生徒・教員の交流を通して円滑な接続を図る。

### VI 学校運営全般の取組

- ・教員の働き方改革を踏まえ、教育課程の精選と校務の効率化を推進する。
- ・教員間のコミュニケーションを重視し、情報共有を徹底する。
- ・学校公開・ホームページ等を通して積極的に情報発信を行い、保護者・地域の理解と信頼を得る。
- ・地域行事・ボランティア活動への参加を促し、地域と協働する学校づくりを推進する。
- ・サービス事故防止研修を定期的実施し、サービス規律の遵守を徹底する。
- ・校内文書決裁システムを定着させ、学校外文書の統一性を図る。
- ・巡回指導の拠点校として、巡回先の学校との連携・協力を図り、巡回するすべての学校の対象生徒の自立活動を促し、在籍学級での適応力・順応力を高めるための効果的な指導、支援を行う。
- ・特別支援学校の在籍生徒との副籍（直接・間接）交流の充実を図る。
- ・エンカレッジルームの学習環境を整備する。不登校生徒や特別な支援を要する生徒への指導や対応、生徒の居場所づくり等に活用する。また、不登校対応巡回教員の協力を得ながら、不登校生徒の教室復帰までの個別計画を作成し、計画的な支援を行う。